

トビウオ通信 (6月号)

http://www2.pref.shimane.jp/suisi/ (TEL 0855-22-1720)

平成 14 年漁期の底びき網漁業の動向

小型底びき網漁業(かけ回し)

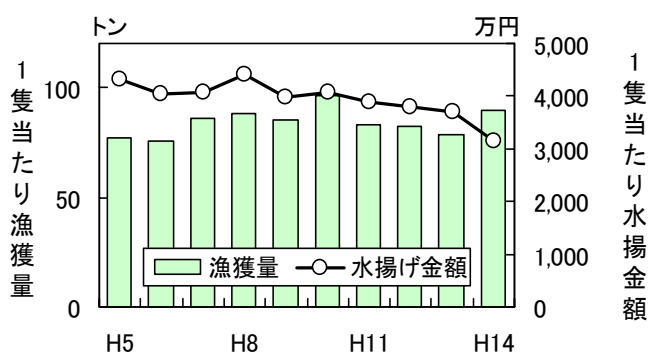


図1 小型底びき網漁業における1隻当たり漁獲量・水揚金額の動向

島根県の小型底びき網漁業(かけ回し)60隻*の平成14年漁期(平成14年9月1日~平成15年5月31日)の総漁獲量は5,390トン、総水揚金額は22億6,451万円でした。1隻当たり漁獲量は89.8トン、水揚金額は3,145万円で、漁獲量は前漁期・平年を上回りましたが、金額は前漁期を15%、平年を19%下回りました。

*当漁業における島根県全体の稼働隻数は61隻ですが、統計は60隻分の集計値です。

カレイ類横這い

ムシガレイの1隻当たり漁獲量は5.1トン、ソウハチは16.9トンで前漁期を上回りました。また、近年増加傾向にあるヤナギムシガレイは1.6トンで前漁期を27%下回りました。この他、前漁期と比べメイタガレイ(1.3トン)は14%増、アカガレイ(0.8トン)は1.5倍の水揚がありました。

ヤリイカ過去最低

ケンサキイカの1隻当たり漁獲量は3.0トンで前漁期を15%上回りました。平成5年以降、1年おきに好・不漁年を繰り返していたヤリイカは、過去最低であった前漁期を更に下回る0.6トンの水揚に留まりました。また、近年安定しているスルメイカは前漁期をわずかに上回る3.6トンの水揚がありました。

キダイ・ハタハタ好調・ニギス増加!

キダイの1隻当たり漁獲量は7.5トンで、前漁期の1.5倍の水揚があり、平成5年以降最高の水揚となりました。近年低調に推移していたニギスは10.9トンで、平年を下回りましたが、前漁期の1.6倍の水揚がありました。また、今漁期は小型ながらハタハタがまとまって漁獲され、3.6トン(平年比1.8倍)の水揚がありました。

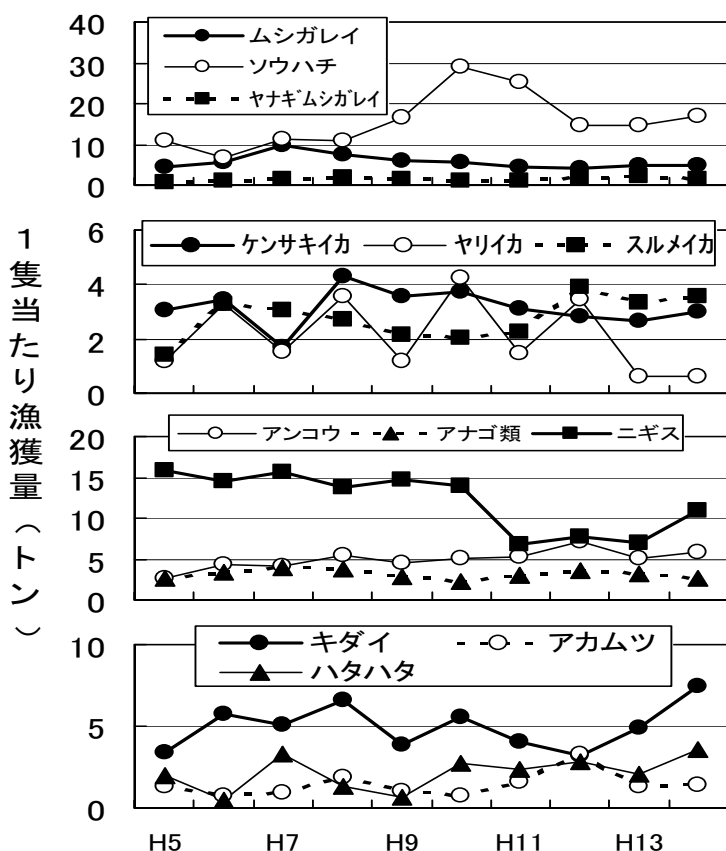


図2 小型底びき網漁業における主要魚種の動向

た。この他、今漁期は秋季にイボダイが大量に漁獲され、平成12年漁期に次ぐ135トンの水揚がありました。

沖合底びき網漁業

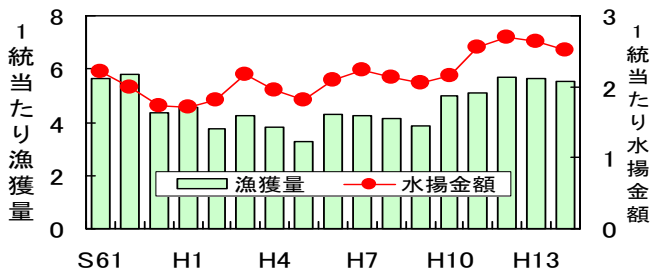


図3 浜田港を基地とする沖合底びき網漁業における1統当たり漁獲量・水揚金額の動向

県西部

浜田港を基地とする沖合底びき網漁業（7ヶ統）の平成14年漁期（平成14年8月16日～平成15年5月31日）の総漁獲量は3,880トン、総水揚金額は17億5,700万円でした。また、1統当たり漁獲量は554トン、水揚金額は2億5,100万円で、量・金額とも前漁期をわずかに下回りました。

ソウハチ過去最低

近年増加傾向にあるムシガレイの1統当たり漁獲量は84トンで前漁期を12%下回りましたが、平年の1.8倍の水揚がありました。ヤナギムシガレイは19トンで、過去最高であった前漁期を29%下回りましたが、資源的には高水準状態にあると考えられます。また、近年減少傾向にあるソウハチは22トンで、前漁期、平年の4割の水揚に留まり、昭和61年以降最低の水揚となりました。

イカ類低調

ケンサキイカの1統当たり漁獲量は48トンで前漁期をわずかに下回りました。年変動はありますが、近年50トン前後で安定した水揚が続いています。一方、ヤリイカの漁獲量は過去最低であった前漁期をさらに下回り、わずか2トンの水揚となりました。

キダイ急増！アナゴ・アンコウ横這い

キダイの1統当たり漁獲量は43トンで前漁期の2.4倍、平年の3.5倍の水揚がありました。特に11,12月には、小型サイズがまとまって漁獲されました。アナゴ類は38トン、アンコウは28トンで前漁期を15%下回りましたが、近年安定した水揚が続いています。また、アカムツは12トンで前漁期の1.5倍の水揚がありました。特に春季に小型サイズが多く漁獲され、秋以降の漁に期待が持たれます。

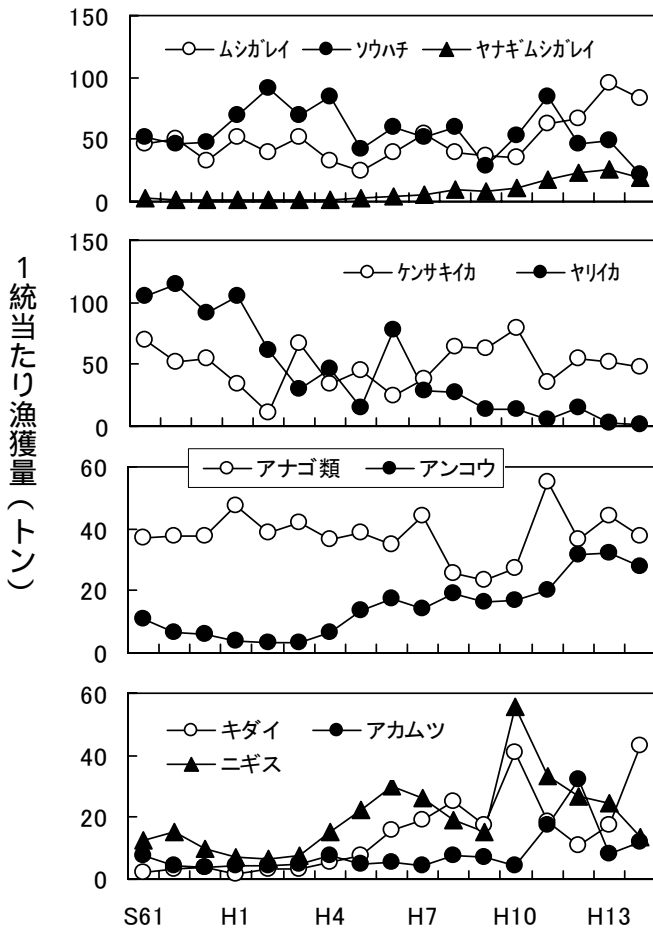


図4 浜田港を基地とする沖合底びき網漁業における主要魚種の動向

県東部

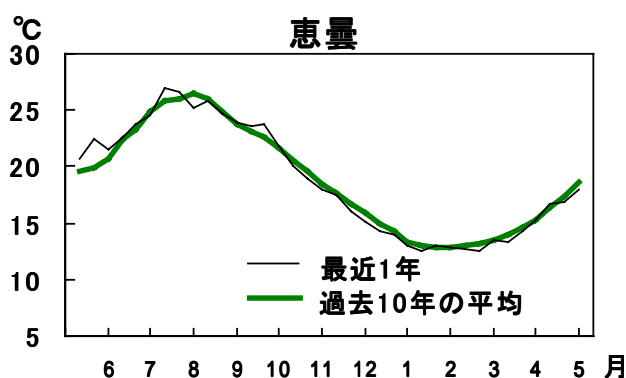
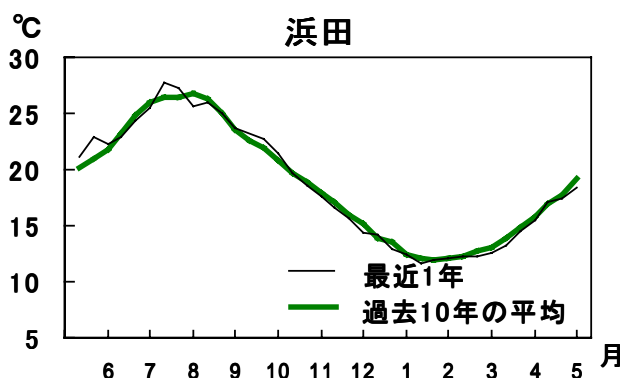
恵曇港を基地とする沖合底びき網漁業（4統）の平成14年漁期の総漁獲量は1,489トン、総水揚金額は8億9,600万円でした。また、1統当たり漁獲量は372トン、水揚金額は2億2,400万円で量・金額とも前漁期をわずかに下回りました。

1統当たり漁獲量で見ると、ムシガレイ・アカガレイは前漁期をわずかに上回りましたが、ソウハチ、ヤナギムシガレイは前漁期を大きく下回りました。その他、キダイ、ケンサキイカ、ヒラメは前漁期を21～38%上回りましたが、アナゴ類、アンコウ、マダイは前漁期を下回りました。

《 5月の海況 》

5月	月平均	平年差	評価
浜田	17.6	-0.3	平年並み
恵曇	17.1	-0.3	平年並み

5月の月平均水温は4月に比べ浜田で3.3、恵曇では2.9高くなりました。浜田、恵曇ともに「平年並み」となりました。



島根県・鳥取県・山口県の各水産試験場が実施した海洋観測結果(5/27~6/4)によると、各層の水温は、表層(0m)が15.6~21.1(平年差は-2.3~+1.7)、中層(50m)が8.5~17.9(平年差は-2.9~+4.0)、底層(100m)が4.8~16.9(平年差は-5.2~+5.5)となっています。

沿岸域の水温は、先月と比較し約2~4高くなりましたが、昨年と比較すると約1.5低い結果となりました。先月同様、隠岐諸島東側~鳥取県沿岸の海域では、山陰・若狭沖冷水域が発達した影響で平年より約2前後も低くなりました。逆に、北緯36度、東経131度45分周辺の沖合海域では、平年より高い状態となっており、特に底層(100m)では平年を約5も上回っていました。島根県沖には2つの冷水域が見られ、1つは見島北約53マイル沖に中心があり、平年より西側に位置しています。島根県沖への冷水域の張り出しは弱く沿岸域では一様な水温分布となりました。

山陰沿岸海域の水温は、表層では「かなり低め~やや高め」、中層では「はなはだ低め~かなり高め」、底層では「はなはだ低め~かなり高め」となっています。

《 5月の漁況 》

【中型まき網漁業】

浜田の中型まき網の総漁獲量は、マアジ主体に574トン、総水揚金額は4,655万円でした。1統当りの漁獲量は191トンで、平年(過去5年平均)の57%、前年の122%となりました。水揚金額は1,550万円で、平年の62%、前年の68%でした。西郷では、カタクチイワシ、マアジ主体に総漁獲量4,466トン、総水揚金額は1億9,600万円でした。1統当りの漁獲量は638トンで、平年の104%、前年の4.7倍となりました。水揚金額は2,800万円で平年の73%、前年の1.4倍となりました。浦郷ではウルメイワシ、カタクチイワシ、マアジ主体に総漁獲量1,698トン、総水揚金額は1億2,500万円でした。1統当りの漁獲量は424トンで、平年の131%、前年の5.4倍となりました。水揚金額は3,100万円で平年の1.4倍、前年の1.8倍となりました。東部ではカタクチイワシ、ウルメイワシでした。また、マイワシもまとまって漁獲されました。

【イカ釣漁業】

浜田港に水揚げするイカ釣船(5トン以上)の漁獲量は、スルメイカ、ケンサキイカを中心に182トンで、平年(過去5年平均)の1.9倍、前年の1.5倍と好調に推移しました。また、ケンサキイカ漁は大型個体を中心に平年を上回る漁獲となっています。一方、西郷のイカ釣船(5トン以上)の漁獲量は、スルメイカを中心に29.7トンで、平年の39%、前年の50%とこちらは低調となりました。浜田に水揚げされたスルメイカは20~30入りが主体となっています。

【沖合底びき網漁業】

浜田港・恵曇港では、量・金額とも前年に比べ大きく下回りました。主要種であるカレイ類が低調に推移し、特にソウハチは前年の2割に留まりました。一方、キダイ、ニギスは好調に推移しています。この他、小型サイズが主体ながらケンサキイカも好調に推移しています。

【小型底びき網漁業】

和江漁協では、出漁日数が前年の90%に留まったため、漁獲量・金額とも前年を下回りました。また1日当たりの漁獲量は前年並み、金額は前年を20%下回りました。ソウハチを中心にニギス、スルメイカがまとまって漁獲されていました。一方、前漁期好調であったハタハタ、ケンサキイカは低調に推移しました。

大田市漁協では、出漁日数が減少したにも関わらず、漁獲量は前漁期を上回りましたが、金額は下回りました。また、1日当たりの漁獲量は前年を20%上回りましたが、金額は10%下回りました。ソウハチ、ニギス主体で、この他ハタハタ、スルメイカがまとまって漁獲されました。

【定量網漁業】

県東部では前年および平年並みの漁獲量でしたが、水揚金額は前年および平年を下回りました。県西部では漁獲量・水揚金額ともに平年を下回ったものの、前年を上回っています。隠岐では漁獲量・水揚金額ともに前年および平年を上回りました。各地区ともブリ、マアジが主体となっています。県東部、県西部ではこの他にヒラマサ、ケンサキイカが漁獲されており、隠岐ではサバ類、カワハギ類が漁獲されています。

【釣・縄】

県東部では漁獲量・水揚金額ともに前年および平年を下回りました。県西部および隠岐では漁獲量・水揚金額ともに前年および平年を上回りました。県東部と県西部ではブリが主体となっており、県東部では前年の約1.4倍、県西部では約2倍の漁獲量となっています。県東部ではこの他にスルメイカ、スズキが漁獲され、県西部はケンサキイカ、ヒラマサが漁獲されています。隠岐ではカサゴ・メバル類を主体に、スルメイカ、メダイが漁獲されています。また、ケンサキイカは各地区で、前年の5~9倍の漁獲量となっています。

漁獲統計

平成15年5月1日~31日

漁業種類	水揚港	延隻数・統数	主要魚種	1隻(統)1航海当漁獲量	総漁獲量
中型まき網	浜田	53	マアジ	10.8ト	574ト
	西郷	93	カタクチイワシ、マアジ	48ト	4,466ト
	浦郷	64	ウルメイワシ、マアジ、カタクチイワシ	26.5ト	1,698ト
イカ釣り (5トン以上)	浜田	503	スルメイカ、ケンサキイカ	362Kg	182ト
	西郷	342	スルメイカ	87Kg	29.7ト
沖合底びき網	浜田	35	ムシガレイ、スルメイカ、ケンサキイカ	11.7ト	409ト
	恵曇	28	ヤナギムシガレイ、ムシガレイ	5.1ト	142ト
小型底びき網	和江	432	ソウハチ	713Kg	308ト
	大田市	308	ソウハチ、ニギス	691Kg	213ト
定量網	浜田	72	ブリ、ヒラマサ、ケンサキイカ	522kg	37.6ト
	美保関	137	マアジ、ブリ、ヒラマサ	474kg	64.9ト
	浦郷	84	ブリ、カワハギ類、マアジ	783kg	65.8ト
釣・縄	浜田	2055	ブリ、ケンサキイカ、ヒラマサ	21kg	42.4ト
	五十猛	500	カサゴ・メバル類、ケンサキイカ	22kg	11.2ト

1隻(統)1航海当漁獲量は総漁獲量/延隻数・統数で算出しており四捨五入した値です。